

2019年度 自己点検・自己評価結果

大項目	番号	評価横目	評価の視点	評価点	分析・対策
			□：普通レベル ■：加点レベル		
Ⅰ 学校経営	1	学校のビジョンおよびそれを実現するための組織目標を策定しており、その目標が教職員に理解されているか	□単年度の組織目標を策定し、それを職員に周知している □組織目標を設定する際に教職員の意見を取り入れている □前年度評価を活かし、学校の状況を踏まえた目標である □組織目標は文章化し、学校以外にも公表している □組織目標が法人目標との整合性がある ■中・長期の目標も策定している	3	法人目標と整合性を図り単年度ごとに策定し、教育委員会を経て職員に周知している。今後は、学外への公表や学校ビジョンを踏まえた、中・長期の目標設定を検討する。
	2	組織目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか	□組織目標を単年度で評価している □評価結果から次年度の課題を明確にしている □評価結果を教職員に周知している ■中間評価を実施し、その結果を後期に活かしている	4	今年度は、中間評価を実施し、後期に活かしていく予定である。
	3	学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、評価結果をもとに改善計画を策定して	□評価結果を教職員に周知している □評価結果をもとに改善計画を策定している ■中間評価との関連で改善計画を見直している	3	教員全員への周知については、課題があるため今後中間評価や最終評価の報告会を企画していく
	4	各リーダーがそれぞれのチーム（学年・領域・委員会）をまとめ、チーム力を発揮し、問題解決にあたっているか	□リーダー会や教育委員会など、学校運営上の重要事項検討および、共通認識の場として機能している □人材を適材適所に配置する工夫を行っている ■各チーム内だけでなく、全職員間で連携やコミュニケーションをとる機会を設けて機能している ■チームの活動内容を随時全職員間で共有し、可視化している。	4	学校組織図、会議組織図を見直した。教育委員会は運営会議に次ぐ決定機関とし、報告事項のなかでも検討必要ある場合はその場で結果まで導くなど、会議運営の見直しを図った。
Ⅱ 教育課程・教育活動	5	卒業時において持つべき資質を教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか	□看護師として身に着けておくべき資質が、知識・技術・態度の側面から明文化されている。 □教育目標を学生に説明する機会を設けている □教育目標の到達状況を教員間で確認する機会がある。 ■教育目標に照らし、卒業時の到達度を評価している	3	教育目標に即したレベル目標を挙げている。各学年【理想の看護師像】というテーマでチェックリストを作成し、学生が中間と最終で自己評価をしている。
	6	学習内容は教育理念・教育目標との一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか	□教員全員で教育課程を検討する場を設けている □理念、目的、目標と一貫性のある内容となっている □社会情勢にあわせた内容を含んでいる □教育課程評価を行い、結果を次年度に反映させている ■学校の独自性が盛り込まれている ■時代の要請に応じて、必要時、修正している	3	2020年度カリキュラム改正に向けて、3年前から新しい教育目標、コンピテンシーに関する検討をしている。
	7	授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしている	□内要が具体的である □シラバスに示された内容を実施している □1単位（30時間）につき、担当者を3人までにしている（専門基礎を除く） ■前年度の評価結果（前年度領域のまとめ、授業評価アンケート等）を参考に、各領域担当で授業案を検討している ■実施結果や学生の反応を踏まえて見直しを行っている	3	シラバス作成基準が現在ないが、内容は統一されている。今後基準作成が課題である。授業アンケートは、担当教員で活用されている
	8	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整している	□時間割作成時に授業担当教員と調整をしている □時間割は学生の状況に合わせて作成している □学習の順序性を考慮した時間割となっている □学生への時間割発表は1か月以上前に行っている ■学生への時間割発表は3か月以上前に行っている	4	学外講師とも調整を図り、学習の順序性や演習のタイミングなど、考慮している。

Ⅱ 教育課程・教育活動	9	授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか	☐ 領域で授業案を検討している ☐ 領域で実習指導案を検討している ☒ 学校や領域として授業評価の結果を分析し、授業内容や指導方法に反映させている ☒ 全教員が2回以上の授業公開を参観している	3	全教員が2回以上の授業公開をしていないため、今後計画的に実施していくことが課題である
	10	授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう、工夫・改善しているか 学生の単位取得に向けた支援を実施しているか	☐ 教員は初回授業で科目目標、評価目標等を学生に説明している ☐ 教員は不合格科目の分析をしている ☐ 実習において教員は学生に不合格の理由を説明している ☐ 教員は学生が不合格となった理由を自己分析するよう、指導している ☒ 教員は学生の自己分析結果に基づき、対応策を学生と検討し、指導している ☒ 成績不振者を対象として定期的な学習会等を実施している	4	学年担当は科目試験不合格の学生に対して、面接等で学習方法の支援を実施している。
	11	実習目標が達成されるよう、実習環境が整備されているか	☐ 実習先にCFルームや学生が記録や学習をする場所が整備されている。 ☐ 学生の学習を促進するための図書等が実習施設に整備されている ☐ 学生が実習中は、指導者が毎日勤務し、学生指導、教員との連絡調整、カンファレンスへ参加している ☒ 実習指導者が固定（1週間程度）病棟を選択している ☒ 同じ診療科の実習場所に重複して行かないよう実習病棟が確保されている ☒ 教員の専門性が活かされた体制になっている	4	カンファレンスルームなど実習に必要な環境は整備され、病棟図書なども活用可能である。指導者は常在し、学生個々の指導の方向性など、教員と随時、連絡調整を行っている。
	12	実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し、実習指導にあたる体制があるか	☐ 定期的に指導者会を開催している ☐ 指導者と教員の事前打ち合わせ、事後反省会を行っている ☐ 学生の日々の学習内容や指導方法について、教員と指導者で常に意見交換している ☒ より質の高い実習指導体制を整えるために、指導者と教員が参加する学習会が企画されている ☒ 実習科目ごとに指導要項を作成して実習施設にも配布し、活用している	4	年に2回定期的に実施している。実習指導者に卒業生が多くなっていることも連携強化につながっている
	13	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公平性・妥当性が保たれている	☐ 評価基準を書面で提示している ☐ 評価方法及び評価結果を学生に説明している ☐ 模範解答が一定期間掲示されている ☒ 領域で試験問題が検討されている ☒ 演習や実習の評価を複数で行うよう努力している ☒ 演習・実習について公平・妥当な評価を目指し基準の見直しを毎年行っている	4	模範解答は試験問題を返却しないため、掲示していない。掲示する必要性の有無については要検討が必要である。 演習評価は担当教員のみの評価だが、実習は指導者と教員2名の評価で実施している
	14	実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか	☐ 患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成している ☐ 受け持ち患者に説明し、事前に同意を得ている ☐ 患者への倫理的配慮について指導を行い、学生は倫理に基づいた言動を心掛けている ☐ 倫理的な事柄に関連した患者からの苦情申し立てがない ☒ 学生が受け持つことについて患者（家族）から文書による同意を得ている	4	昭和大学の規定に基づいて実施し、学生受け持ちの同意書を得ている

II	教育課程・教育活動	15	実習時のインシデント、アクシデント等を分析し、学生指導に活かしているか	☐ インシデント等発生時のマニュアルを作成している ☐ 実習前後に安全教育を実施している ☐ インシデント等の情報が速やかに報告され、教員間、学生間で共有している ☒ 学生が関係したインシデントについて、分析し再発防止に取り組んでいる ☒ 実習科目ごとに安全カンファレンスを実施している	4	各実習前医療安全教育、3年次にはKYTを取り入れている。 インシデントはヒヤリハット報告書を活用して、適宜カンファレンス等で教材化している。
		16	学生による授業評価および教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか	☐ 専任教員は全員が授業評価を実施している ☐ 専任教員は全員が自己評価を実施している ☐ 非常勤講師に対して協力を依頼し、授業評価を実施している ☐ 学生および実習施設に、結果を伝えるシステムがある ☒ 評価結果について学生と意見交換している ☒ 各領域で評価結果を共有し、次年度に向けた改善計画を明文化している	3	授業評価アンケート回答率20%以下、方法を変え回答率を上昇させる事が課題である。実習評価アンケート結果を実習施設に配布している。教員は実習評価結果をもとに実習調整者と意見交換をし自己の課題としている
III	入学・卒業対策	17	より多くの応募者を確保することに努めているか	☐ 学校説明会は参加者の利便性（曜日、時間）を考えて開催している ☐ 各高等学校等に出向き学校案内を行っている ☐ 指定校推薦校に出向き学校案内を行っている ☒ 学内に「学生確保プロジェクトチーム」等を設置し、前年度結果を分析し、計画的な確保対策を実施している ☒ 入学者の出身高校等に学生生活の様子を報告している	4	個別相談は、教員と学生とブースを設けており、説明会・オープンキャンパスに訪れた受験希望者には、好評である
		18	国試の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか	☐ 各学年に対する指導方針が明確である ☐ 国試対策委員会を作っている ☐ 前年度不合格者に対して、指導、情報提供を行っている ☐ 国試の合格率が全国平均を上回っている ☒ 国試の合格率が100%である ☒ 学校独自の工夫をしている	4	各学年に学習支援体制が設けられ、低学年から、模擬試験を実施している。 前年度不合格者については、担当の教員を決め学内の総合講義への出席、予備校模試の結果相談等の支援を行っている
		19	質の高い卒業生を多く輩出するための努力を行っているか	☐ 個別面接によるきめ細かい指導を行っている ☐ 必要に応じ学生とその保護者との三者面談を行っている ☒ 課外時間を活用した技術指導時間を確保している ☒ 今年度の退学者が全学生の2%以下である	4	学年・クラス担当で細かく個別指導を行っている。随時保護者とも面談している。2019年度は、保護者会や通信等も強化していく予定である。
		20	卒業生への支援を行っているか	☐ 卒業後にホームカミングデイを実施している ☐ 卒業生への就業継続への支援事業を行っている ☐ 卒業生も図書室を利用することが可能である ☒ 既卒者、中途退職者に対し就職相談にのるシステムがある	3	ホームカミングデイ実施は、今後は検討していく。就業継続の支援は附属病院看護部と連携している。また、2019年度は学内にキャリア支援担当が設置されていく予定である
		21	卒業生の大学病院就職率を高めるよう努力しているか	☐ 入学時から大学病院への就職に向けてガイダンスを行っている ☐ 学士入試および推薦入試入学生の大学病院就職率が95%程度である ☐ 就職者に占める大学病院就職率が85%程度である ☐ 進路指導において、大学病院の募集情報を収集し、学生に提供している ☒ 就職者に占める大学就職率が95%程度である	4	昭和大学付属の学校なため、大学病院就職率が高い。看護部との連携もあり、早期から対応している。

IV	学 生 生 活 へ の 支 援	22	進学・就職などの進路に関して 学生の相談に十分応じているか	☐ 進学、就職に関して相談に応じるとともに、情報を提供している ☐ 進学、就職のための面接、論文指導を行っている ☐ 就職説明会を実施し、就職先選択の支援を積極的に行っている ☐ 「就職ガイダンス」を活用している ☒ 卒業生を学校に招き、先輩との就職懇談会を実施するなど直接職場の様子を聞ける場を設けている ☒ 卒業生の来校時等に就職先の情報収集をし、適宜、在校生に情報提供している	4	業者による説明や指導等を入れて行っている。またキャリア支援室が2019年度できるために、さらに強化できる
		23	経済的、精神的側面からの支援体制が整い、効果的に活用しているか	☐ 奨学金、授業料減免など、経済的支援の相談に応じるとともに、情報を提供している ☐ カウンセラーの存在、役割を学生に周知している ☐ 必要に応じ学生の同意のもと、カウンセラーと連携をとっている ☐ カウンセリングが必要と思われる学生に、教職員からカウンセリングを勧めている ☒ カウンセリングを受けていることのプライバシーが守られている ☒ 専用のカウンセリングルームを設けている	4	奨学金については、学校説明会や入学時の保護者説明会地に説明している。また、随時事務課窓口で相談対応できている。大学の学生相談室を入学時から紹介するとともに、学生便覧にも載せている。 学年担任は面接時などに、必要と考えた学生には勧めている。2018年度3月現在活用は5名（1.1％）であった。
		24	学生の身体的側面の健康確保に努めているか	☐ 健康診断後の指導、相談がなされている ☐ 適宜、校医と情報交換をしている ☐ 敷地内は完全禁煙になっているとともに、禁煙教育を行っている ☐ インフルエンザなどの感染予防対策について、周知啓発している ☐ 教員等は必要時、慢性疾患等のある学生の情報を得て、指導している ☒ 校医による健康相談日を設定している ☒ 保健室は男女別に設けられている（2つ以上ある）	4	全学年4月に健康診断を義務付け、保健管理センターを通して、問題のある学生については情報を得て、学年担任が随時健康状態を確認している。
		25	サークル活動など学生の自主的な活動を支援しているか	☐ 学生のサークル活動など自主的な活動の支援体制が整っている ☐ サークル活動など自主的な活動を行うための場所や物品を整備している ☐ サークル活動の登録制などで、学校として自主活動を把握している ☒ サークル活動の発表や他校との交流の場を設けることを支援している	4	昭和大学附属の学校であるため、大学のサークルや部活に参加し、活発に活動している。行事等で部活動と授業等が重なる場合は、公欠届を出し学校として公認している。
V	管 理 運 営 ・ 財 政	26	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか	☐ 年間計画に基づき計画的に予算・事業執行を行っている ☐ 計画的に設備備品の充実などを行っている ☐ 授業料等の滞納がほとんどない ☒ 組織的に経費の節減対策行っている	4	教員の組織に物品管理委員会を設置して、共有物品在庫管理、予算管理等行っている。
		27	学生や教職員等の人権・個人情報の保護について十分な対策がなされているか また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか	☐ 学校が保有する個人情報を周知するとともに、個人情報保護宣言を行っている ☐ 学生の実習記録に管理についてルール化してある ☐ 個人情報は「福祉保健局における情報資産の取り扱いに関する安全管理指導」に従って管理されている ☒ 共有データ（USB等）は学外に持ち出さないよう管理している ☐ 教職員対象に人権・個人情報保護に関わる職員研修を行っている ☒ 倫理委員会を設置し、個人情報保護や倫理的配慮が必要な問題について検討を行っている ☒ パワーハラスメント対策等、学校独自の取り組みをしている	4	実習時の守秘義務については、入学時から誓約書等の提出に始まり、実習ORでも徹底している。 実習記録管理はファイルの工夫等行い、学生の意識のみに頼るのではなく、管理しやすい工夫をしている。

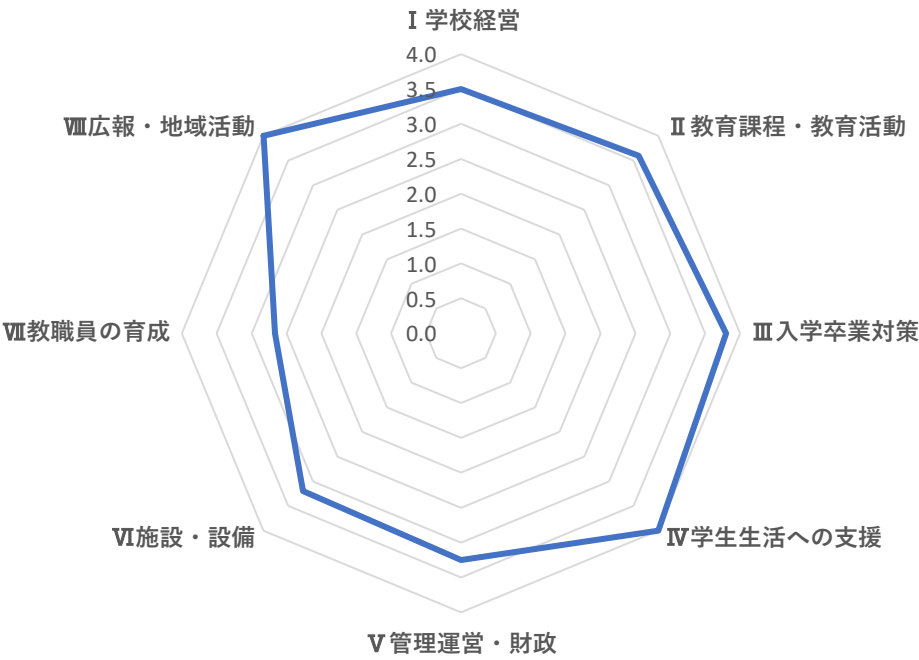
V	管理運営・財政	28	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか	☐危機管理マニュアルを作成し、随時見直している ☐総合防災訓練を年1回実施している ☐不審者の侵入に対し、監視体制が整備されている ☐教職員の緊急連絡網をもとに連絡訓練を年1回行っている ☒学生災害時の食糧・飲料水を3日分備蓄している ☒防犯・交通安全講習会など開催し、学生に受講させている ☒簡易トイレ、寝具を備蓄している	2	危機管理マニュアルの随時見直しができている。毎年改定していることが課題である。大学の警備会社で管理している。
		29	学校運営に学生の意見が反映されるよう努めている	☐学生の意見や要望を聞く場を設け、意見箱を設置している ☐意見要望について、学内の会議で対応策を検討している ☐意見要望への回答を必要に応じて公開している ☒意見や要望に基づいた改善を行っている	3	学生の直接の申し出や授業・実習アンケートなどから意見要望を把握し、改善に向け速やかな対応を行っている。意見箱の活用は少なくなっている。
VI	施設・設備	30	施設・設備の安心、安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。	☐耐震基準をクリアしている ☐車いすでの利用可能なトイレ・スロープを設置している ☐校舎にエレベーターを設置している ☒構造上変更できない部分を他の方法で補う努力をしている	3	基本的な設備は整っている。
		31	教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また学生の自主的な学習の場が確保されているか	☐教育目標の達成に必要で適切な教材が整っており、活用されている ☐車いすでの利用可能なトイレ・スロープを設置している ☐PCは授業時一人1台使用できるよう整備している ☐学生の自主的が羽州のために、教材や施設・設備を活用させている ☒インターネット検索のできる学生用PCが3台以上ある	3	基本的な設備は整っている。学習の場合は、学生数を考慮すると、十分な確保に至っていない。
		32	学生のための福利厚生施設・設備は整っているか	☐学生が自由に使用できるホールがある ☐サークル活動などができる場所がある ☐学生用の施設は、時間外にも使用できる ☒可能な範囲で長期休業日にも利用可能となっている	4	学内施設のほか、大学の施設も借用可能である。
		33	図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか	☐図書室の利用促進のための情報提供など必要な措置を講じている ☐蔵書・雑誌について、定期的に廃棄等処理を行っている ☐長期休業中の利用・時間外利用を認めるなど図書サービスの向上に努めている ☐計画的に新刊書を購入し、学生へ最新の知識・情報の提供に努めている。 ☒レファレンスサービスを行っている ☒定期的に図書だよりなどを発行している ☒蔵書が1万冊以上ある	4	専任の司書がいて、随時情報提供を掲示という形で図書室内に実施している。教員の図書委員と連携し、見計らい図書など新刊書の提供に努めている。 夜間や休業中は学生バイトを活用し、サービスの向上に努めている。 蔵書は1万3千冊ある。
		34	実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしているか	☐学生数に応じたスペースが確保されている ☐指定規則、別表九に定められた備品・設備が整備されている ☐備品・設備の点検を定期的に行っている ☐学生が備品・設備を学習のために使うことができるためのシステムが確立している ☒特別な設備・備品（デモコーナー・移動リフトなど）が整備され、活用されている	2	実習室ベッド数は賄えているが、狭い。物品は常に不足 学生数多く、備品が壊れやすいが修理に時間がかかる備品、設備の点検は各領域で長期休暇中などを使って実施している。 2019年度、電動ベッドは廃棄し、新しく購入（購入依頼は2018年3月に提出）予定である。

VII 教 職 員 の 育 成	35	学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っている	☐ 課題に沿った研修を企画している（内容・講師・日程・時間数など） ☐ 教職員の90%以上が参加している ☐ 他校にも参加を呼び掛けている ☒ 他校から参加者がいる	4	毎年ワークショップを企画し、大学の教育推進部と共同して、実施している。
	36	学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがある	☐ 教員が参加しやすい日に伝達講習が計画されている ☐ 公費学会参加者は全員が伝達講習を実施している ☐ 伝達講習の内容を組織的に教育に取り入れている ☒ 自費で学会参加した人も伝達講習をしている	3	2019年度から、教育員会を設置し、計画に取り組んでいく。
	37	教員が計画的に臨床看護研修に参加できるよう支援しているか	☐ 短期臨床研修の参加者は当該年度10%程度である ☐ 3年程度を目途に各教員の臨床研修計画を立てている ☐ 当該年度、臨床研修への参加者希望者全員が研修に参加できている ☒ 長期臨床研修に参加できるように参加できるように参加予定者の業務分担等が考慮されている ☒ 5年以上臨床から離れている教員は全員臨床研修を終了している	2	当校は、研修を実施していない。今後検討が必要である。
	38	教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか	☐ 教員の80%程度が研究調査活動に参加している ☐ 研究調査日を活用しやすい環境がある ☐ 「授業研究」が行われる全領域に1名の参加者がいる ☒ 教員の90%以上が研究調査活動に参加している	2	研究活動を実施しているのは、数名であるため、2020年度へ向けて各教員の計画を出してもらい、研究活動を活発にしていくことが課題である
	39	教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度がある	☐ 学内授業の参観日を計画している ☐ 教員が授業研究に参加できるように計画している ☐ 教員の90%程度が授業公開をし、実施後の評価会を行っている ☒ 全教員が授業公開をし、授業後の評価会を行っている	3	数年前より、授業見学は実施し、お互いフィードバックしている
	40	専門領域認定が受けられるような支援体制が整っている	☐ 専門領域認定のために臨床研修に参加できる仕組みがある ☐ 可能な範囲で専門領域に配慮した領域配置が行われている ☐ 専門領域認定者が50%程度である ☒ 専門領域認定者が60%以上である	2	支援体制は、整備されていない。今後仕組みづくりが課題である。
VIII 広 報 ・ 地 域 活 動	41	学校の存在を周知するため、ホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか	☐ 昨年の評価を活かした広報計画を年度当初に策定している ☐ ホームページは受験生が求める情報を掲載している ☐ ホームページは定期的（年6回程度）に更新している ☐ ホームページは卒業生に必要な情報を掲載している ☒ ホームページは年10回程度更新している ☒ ホームページはトップ画面から必要項目に入りやすい作りになっている ☒ 広報活動の結果、説明会参加者増、受験生増となっている	4	大学と連携し、定期的に更新している。昨年度ホームページ委員会を設けてからは、年10回以上の更新を実現した。また、入試過去問題や倍率などの情報提供を行っている。
	42	地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか	☐ 地域住民を対象にした公開講座を年1回実施している ☐ 地域のボランティア活動への参加を促している ☐ 学校祭等学校行事に地域住民等が参加している ☒ 地域住民等との連絡会等を持っている ☒ 学校として地域の団体等の行事に参加している ☒ 地域の小中学校の教育活動に協力している ☒ リカレント教育として実習病院や近隣学校教員等に授業を公開している	4	近隣の小学校の授業に協力している。旗が丘祭やいぶき祭、盆踊りなど行事を通じて地域と連携を強化している。

評価結果

I 学校経営	3.5
II 教育課程・教育活動	3.6
III 入学卒業対策	3.8
IV 学生生活への支援	4
V 管理運営・財政	3.3
VI 施設・設備	3.2
VII 教職員の育成	2.7
VIII 広報・地域活動	4

2019年度自己点検・自己評価



(総括)

- ①教職員の育成については、点数が低いため現状を分析し、具体的な育成計画を作成し、取り組んでいく。また、キャリア支援として、研修支援や研究等を促進していくことが必要である。
- ②学生数が多いため、大学と協議して施設等の整備については、事業計画に組み入れて実施していくことが必要である。
- ③学生への支援体制、入学卒業対策ができているため国家試験合格率も高く推移している。今後も継続して実施していく。